

プロフェッサーPの研究室

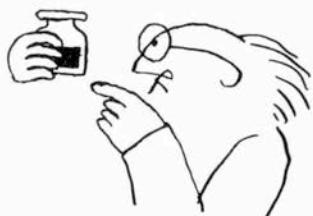
人体生理学の研究 その1

岡 田 淳

この中へ?



そろじゃ
入るのじゃ



どうやら 我々は
インクのごときもので
構成されておるらしい

ブリブエッサーPの研究室 —— 人体生理学の研究 その2 ——

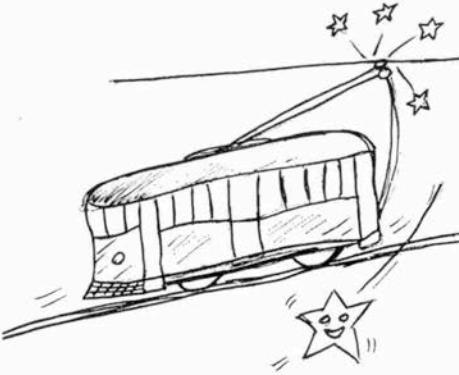


心に残るKOBE

9

市電の幻想

あおばしげる（えと文）
今はウィーンなどに残るボールの
“火花”の思い出



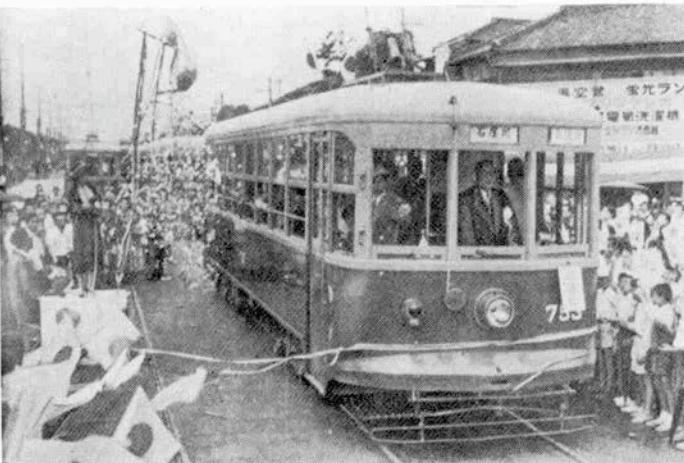
ポールと架線の接触で散る“火花”

「日本一の神戸市電」ということばを誇らしげに語った少年時代の思い出を、今でも私はなつかしさをもつて胸に描くことができる。いや、

私だけではなく、四十歳代以上の神戸市民ならほとんどの人が同じような思い出を持っているはずである。同時にこのことばと共に私のまぶたには、昭和初期から市民の前に登場した、あのスマートなグリーンのボギー車の姿が、昨日のことのようになりありと浮かんでくる。電車の構造的なことについての科学的な知識の持ち合わせは乏しいが、ボギー車が大正九年に登場した時（ただし、從来の実用一本の褐色からツートンカラーの美しいみどり色に塗り変えられたのは昭和八年で一説には、須磨海岸の松と六甲山の緑をとり入れたものといわれてい

る）、当時の市民は「この市電こそ日本一のできばえの新車で、東京にも大阪にもないしゃれた乗り物だ」と胸を張つてほれぼれと街を走る車体を眺め、愛乗したものである。

私が中学二、三年生の頃だが、大阪に住む従兄（高生）が家へ来ると、よく大阪と神戸の自慢話に花を咲かせたものだが、彼がしきりに人口の多いことや大商都としての大坂の強みを擧げて私をやり込めようとする、私は日本一の貿易港で海と山の自然美に恵まれた神戸のよさを強調して対抗したものだ。また、従兄が大阪のタクシーの数の多さを口にすると、私はここぞとばかり神戸の市電のモダンでスマートなことを必死でまくしてたものだった。事実當時から戦後へかけて神戸市電がスタイル、性能などの構造上の諸点からみて他都市の市電



最後の軌道延長になった石屋川線の開通式（昭和28年）
「神戸市電物語」のじぎく文庫より

に比べてよほどすぐれていたことは、全国的にも定評があったところだった。神戸の街が美しい姿の市電を走らすのに適したモダンでエキゾチックな（外人の居住が多いことなど）街であったことが、こうした市電誕生の大きな理由であったことはもちろんである。

市電誕生の歴史からみると、神戸市電は全国で第一位の京都（明治二八年）と第二位の大坂（同三年）について第三位だったが、技術、車両は他都市に比べて抜群の性能であり、「A型車両」と呼ばれる輸入車両（五三両輸入）は木製ではあったが、豪華な舶来品だった。最初の路線はいまの葺合区春日野から南本町—滝道経由、兵庫停車場までわずか五・八五七キロで、架線は中央柱式、床は約一五〇ミリの浅い砂利、軌道の中は碎石を詰めた、すべて粗末なものであった。そして今では想像もつかない、「がらん、がらん……、がんがん」と鳴るそれはにぎやかな警笛を鳴らしながら走ったものである。時速は二〇キロ。だが、当時とすれば驚異的な新鋭車であり、以後の「古きよき市電」への花やかな、栄光への晴れ姿であった。なお、コースは四区内に分かれている、通行税共一区三銭の乗車料で、運転手の日給は三五銭だった。つづいて大正三年には布引線（三宮町—熊内橋通り）大正九年には工費八九四万円で第二期線工事を完成（和田岬線＝中之島—今出在家二丁目を最後に）、同一〇年には山手、上沢線、遅れて昭和一二年に須磨線全部と板宿線が開通して神戸の市電網は完成した。運賃は六銭となっていた。こうして市電は大衆の足の役目を果たしながら、昭和四六年三月一三日に「さよなら電車」が走り、全線廃止となるまで続いたわけだが、長い年月の間の市電の姿を回想してみると、郷愁も手伝つてか、私の目には市電のよい部分、特に市電にまつわる詩的で幻想的な思い出がいくつも浮かんでくる。昭和一〇年に一時的に作られたロマンスカーに乗つて、滝道から山手、上沢、東尻池線を通つて須磨終点まで行く約一時間を利用してリルケ詩集などに読みふけつた個人的体験も詩的な

思い出の一つだし、湊川トンネルをくぐる時にわずか十秒間ほどだが車内燈がバツとつけられるが、少年の心にとてもうれしかつたものだ。

だが、筆者にとっていちばん詩的で幻想的な思い出は、夜の町をイルミネーションで飾つて通つた花電車の美景よりも何よりも、夜間や薄暮に市電が走りながら時々ボールと架線の接触のぐあいで銳い音と共に発する、あの藍色の光りのえもいわれぬ瞬間の美しさである。この情景を作家の稻垣足穂は「宝石を見詰める女」という短篇の中で、「神戸の山ノ手における初夏の晩などに、バシッとスパークして、近くのブラタナスやレンゲ屏が真青に照らし出される一瞬、なにか不吉な危機感と共に、私は摩訶不可思議の啓示がそこによみ取られるようになります」といつそう幻想的、神秘的に表現しているが、かつて私は夜の町を歩きながら、この青白いスパークの火花にたびたび驚かされたり、ふと詩的な思いにとらわれたりしたものだ。

これと同じことを最近NHKの吉田直哉という人がある本に書いている「幻の電車・夢の町」という隨想の中で読んで、私は昔のこの情景を久し振りでなまなましく思い出したものだ。同氏のウイーンにおける旅の印象記の一節だが、こう書いている——「カフカの小説『審判』などで有名なプラハの夜の町を歩きながら、私はこの中世そのもののような暗がりのふしきを身をもつて味わっていた。そんなことを考えていて、突然市電が来た。輝くばかりの光をありつたけの窓からふりまいて、いかにも幸せそうにそれは近づき、宝石のような青い火花を散らしながら、見る見る遠のいて行つた」。この火花はもはや今日の神戸では見られない。それが見られど少年時代の夢をみさせてくれることだろう（五・二記）

うわの空

くるま文化 ①

竹田 洋太郎

<在ニューヨーク>

え・たかはし もう



日本からニューヨークのケネディ空港に夕方到着して市内へ向かう経験を持たれた方は多いと思う。

その時、夕日を背にして浮ぶマンハッタンのシルエットは、なかなか感動的なものにちがいないが、同時に、それが午後五時すぎだと、都心から郊外に向かうハイウェーの三車線がギッシリ車で埋まっているのに気がつかれることだろう。

これはニュージャージー側も同様で、緑の林や芝生を両側に沿わせたガーデンステート・パークウェーなど、昼間走ると、全く車のかけが少なく、なんのために片道四車線もあるのかと驚くが、これが通勤時間となると、一方の車線は完全に車に占領され、しかもノロノロ運転となる。

車のサイズは、日本製はじめ小型車がふえたといふもの、まだまだ日本でいう大型車が圧倒的に多く、それに乗っているのは大てい一人だ。ニューヨークは、住宅地域と都心を結ぶ地下鉄、郊外鉄道、バスが全米でいまのところ一番多いにかかわらず、また、マンハッタン島と外側をつなぐ橋やトンネルを管理する港湾公団は、島への車の乗り入れに、乗り合わせ(カーブール)を三人以上すると道路料金を大幅に割引きするにもかかわらず、である。ガソリンのムダ、時間のムダを考えると、ここでも一抹の空しさを感じるのだが、同時に米国人と自動車の関係は「ただならぬもの」に思えてくるのだ。

米国人にとって自動車は恋人だ、とか、デートの相手だ、とかいふたのはマクルーハンというカナダのエライ

先生だった。いや、それ以上のものではないか、というのが私の印象だ。二人の未知の人が、なにかの会合で出席したとする。その時、日本人や英国人なら、共通の話題はお天気から始まるだろう。気候の不順な、天気の変わりやすいニューヨークでも同様だが、その話題はすぐ自動車に移行する。そうなると中年であれ、青年であれ車の話はとまらない。「恋人以上の存在」というのは、人は恋人のことを、こんなに熱心に語らないからだ。

もう一つ、ニューヨークにはじめて着いた日本人が例外なしに驚くこと。それは多くの車がヘコミだらけ、汚れっぱなしで、見られたものじゃないこと。この理由を尋ねられると、前からニューヨークにいる日本人は、先輩をして「日本じゃ車は財産みたいに考えてビカビカに磨き立てていますが、アメリカ人にとっては、車はゲタみたいなもの。それにコミを直してもらわには時間と金がかかるので、通勤にさしつかえるし」と説明する。それで一応はみなさん納得される。

私はそれだけでは納得できなかつた。

世界は飛行機で代表される「現代」にあると、奇妙な理屈をのべてみたが、日常生活の段階では「自動車の時代」であることは、だれもが認められるだろう。日本でも「モータリゼーション」という言葉が十年も前から、したり顔で使われている。さほどに自動車が日常生活の中で重要なとしたら、それは「自動車文化」といえるわけだが、世界共通のこの文化のおかげで、トヨタもダットサンもマツダもホンダも、すでにヨソモノのよ



筆者

うな顔をせず、アメリカのハイウェー裏街を走っている。

だが、それが「文化」といえるほどに生活の一部になつたら、必ずそこに、国や民族や人種や宗教が大きな影を自動車の上にさしかける。

反対側からいうと、米国の自動車文化は米国文化であり、日本のモータリゼーションは、やはり日本文化の一つの姿だ、ということだ。もちろん、歐州大陸の自動車文化はそれぞれの国の性格をはっきり示すし、イギリスはイギリスで、ここでなければ生まれない自動車文化を生んでいる。ロールスロイスやアストンマーチンを考えれば十分だろう。これもイギリスの経済的な行き詰まり

くるまは西へ……



そのままに、倒産に瀕したなどといふのはいい過ぎだろうが。
車に乗ることも馬に乗ることも英語では「ライド」であり、車を運転することも、馬車を走らせることも「ドライブ」だ。しかし日本語には自動車を「運転」するといふ、造語または訳語をしなければならなかつたぐらい適当な言葉はなかつた。「愛車を駆つて」などといふが自然に口に出る言葉でなく、わざとらしい。近ごろ、車を「ころがす」とよく若い人がいう。いかにも感じが出てはいるが、小型の国産車やフォルクスワーゲンなどいふることで、キヤディラックやリンカーンについていえる言葉ではない。

なるほど自動車は米国では馬車、それも西部開拓の主役だったホロ馬車だとだれでも考えつくのは、バカでかい「ステーションワゴン」——文字通り駕馬車だが——を見るだけでいい。わざと木目をまねた塗装のパネル。屋根にも荷物を積めるクロームの荷台。それだけでない。父がハンドルをとり、母がその右にどつかとすわり、子供たち（時には五人、六人）が後の座席におし込まれる。日曜のピクニックとなれば、牛丼、野菜、カン入りのおびただしい清涼飲料水（英語のソフトドリンクはこういわねばならない）を入れたスチロールの氷箱。バーベキュー用の焜燄（これは一般的なのが「ハイバーチ」つまり日本の火鉢から来たことば）に豆炭（日本では忘れかけられた豆炭が米国西部には輸出されている）それになによりも、一家を乗せてドライブするオヤジさんの責任感に満ちた厳肅な表情を見ればうなづかれるだろ

車は西へ……である。

理屈はあとで改めて考えてみると、米国での自動車は、日本人が説明するように「ゲタ」や草履ではなくて、馬もしくは馬車である。それなら日本の自動車はなか。これは「駕籠」である。

淀長立見席

41



私の学びの窓

淀川 長治（映画評論家）

錦座で上映された「ウーマン」の一場面から

神戸三中（長田高校）が今年で五〇周年を迎える。それでそれを記念して九月六日に大倉山の文化ホールで何か話せと電話がかかつてきたり。早や五〇年。私は三回生。三中生活は、ついこのあいだとさえ思えるのに。

その三年のころ同級生にチャールストン・ダンスの実に巧い中村君がいた。あのころは校舎に入る時にはドタ靴を白い運動靴にぬぎかえさせられた。その白いので踊るから、彼の両足の動くのが非常に上手に目にしみた。

大正十五年（一九二六）の夏に新聞地のキネマ俱楽部でストロハイム監督の「グリード」が封切られた。その初日は超満員であった。第一回の上映が終り客が外へあふれる中に私はあの中村君の顔を見つけた。彼の顔は興奮で上気していた。この「グリード」（一九二四）はストロハイムが上映時間九時間三〇分にまとめたものをM・G・Mが二時間三〇分にカットして上映にこぎつけたものだが、それでも圧倒された。去年、私はニューヨークで、この「グリード」全巻を三四八枚の場面写真と五二枚のスナップ写真を加えてハーマン・G・ワインバーグがノー・カット「グリード」として一冊の写真集本としてまとめたのを買ってきていた。一九七三年のニューヨークのダントン社発刊の大型のものである。

その「グリード」を私は新聞地で十七歳の時に見た。グリフィス監督の「散り行く花」は朝日館で十三歳の時に見た。大正十一年の封切であった。この「散りゆく花」



は見ていると涙があふれるだけでなく、自分の口から泣き声が出そうになつて唇を噛みしめたことを思い出す。

モーリス・ターナー監督の「ウーマン」を見たのは大正八年の錦座であった。私の思えば十歳の時である。これまで私は完全に映画のとりこととなつた。この錦座でチャップリンの「兵隊さん」（担之館）も見た。

キネマ俱楽部で見た大正活映の日本映画「アマチュア

俱楽部」「葛飾砂子」も、今もそのファースト・シーンからラストまでがいえるくらい記憶している。私の十一歳の時だつた。

「黄金狂時代」「ステラ・ダラス」そして溝口健二の「狂恋の女師匠」を見たのは十七歳。これも鮮やかに場面を記憶している。

これはなにも、私が自分の記憶を自慢しているのではない。この少年期に私はこれら的一流作品を見ていた幸せを伝えたいのである。

三中は、私の上級生のころには、すでに映画を見ることが早くも許してくれていた。そればかりではなく、私のすすめで「ステラ・ダラス」やドイツのウファ社の



長篇文化映画「美と力への道」などは、学校から全生徒総見で見た。イタリア歌劇団来日の時にはその一座から四名を招き講堂で彼らの歌も聞かせてくれた。

三中は、そういうものに非常に理解があった。これが三中には、泣いたり笑つたりしない人は、人を愛することが出来ない」という西洋の言葉がある。またシェークスピアの「オセロ」は「愛するすべてを知らぬ男が、愛しすぎた男の悲劇」であった。少年少女時代に、それらを学ぶことこそが人生の基礎だ。実にこれは大切だ。

神戸は私の心のふるさとである。そして新聞地はまた私の人生の学びのふるさとだ。十歳ではなにまだジャリジャリ……と思うのは大人の怠慢。最近私は「少年マガジン」にここずっと毎週映画の頁を書きつづけているゆえか、少年少女からの多くの手紙が舞いこんできて「ザ・ツツ・エンタテインメント」や「キッド」への感激ぶりは大変なものである。少年少女時代の感激は貴重である。逃してはまことに損だ。

話が變るが、五月の初め私は京都の立命館大学の講堂で映画講演をしてきたのだが、そのとき初めて、この学校と隣り合せの寺に尾上松之助の墓があることを聞かされた。

尾上松之助は明治四十二年（一九〇九）から活動写真に登場した。ちょうど私の生れた年である。それから大正の終りまでこの通称「目玉の松ちゃん」（目を大きく

『グリード』と、エリック・フォン・ストロハイム監督（『グリード』と、エリック・フォン・ストロハイム監督）は大正十五年の十月に五十一歳で亡くなるまでに、なんと一〇〇〇本以上の映画（サイレン）に出た。私は新聞地の錦座で、幼年時代からずつといたい何十本この目玉の松ちゃんの活動写真を見たことか。そして私はこの尾上松之助の映画によつて歌舞伎のはやしかた（げざ）の鳴りものの勉強をも自然としていたのであつた。そのころの時代劇（旧劇）は歌舞伎そのままに画面の中の人物（俳優）も見えを切つた。歌舞伎の見えを切るときのあの目を大きく見ひらくのを、松之助がいつも演ることで（目玉）の名がついたわけである。しかし、これで私は少年時代に早くも、少しの違和感も感じなく、歌舞伎にも馴染めたのであつた。

女体自慰

35

H・ジュニア
え・浅野俊一

カラカラ浴場の

ソフィアローレン

すきのないオシャレと虚飾のカタマリといった美女が通り相場！しかし、ここまで親身になられては、H・ジュニア氏も男の端くれ、抱いて見たくなつて來た。特に彼女は、イタリー人らしく、皮ふは色浅黒く、ナメシ皮小柄で少々骨バリ、なかなか魅力的な体をしている。

「これからお昼休みだから都合がいい」という彼女も、その辺はお察しの御様子。

遂に二人は、クーラーのよくきいた、ホテルの特別室で昼下りの情事とシャレ込んだ。

しかし、彼女の言い分がふるつていて。

「前の穴は、主人にとつてあるの。後の穴を使つてちようだい」

H・ジュニア氏もすでにヨーロッパへ来て太分たつ。バック攻めには、相当慣らされている。

「OK！」とばかり、それでも、相当頑張らねば入らない。彼女の括約筋は強力だ。

〈彼女の体は、ニワトリで言えば、スジ肉か？〉

しかし、エクスターに達する時の彼女のしかめづら

は、さすがシブーい！さすが、年季が入つていて。

「これ見てちようだい」と、彼女は、血のついたティッシュユベーバーを、H・ジュニア氏に見せた。

〈彼女は少し切れ痔の氣があるのかな？〉

「オーノ、あなた、処女！」

と、H・ジュニア氏が冗談を飛ばすと「イエース、イエース、ベリーナイス」と、彼女は大喜びに喜んだ。

「イタリアの女優で誰知つてる？」「ソフィアローレン！」

「OK！今夜、エスコートの相手に若い女の子世話をたげる」

「今夜は、カラカラ浴場跡へ、アイーダを聞きに行くん

と来たもんだ。」「来たもんだ。」「今夜は、カラカラ浴場跡へ、アイーダを聞きに行くんだけど」

乗せられて、頭の先から足の先まで変身するほど買わされてしまつた。ビューティフル、ベリーナイスとおだてられ、妻君にお土産のハンドバッグまで買わされ、クリケットカードにサインして、やれやれと、これまた買わされた大きなボストンさげて、タクシー乗場へ急いだが、後からさつきのブチックのママが追いかけて來る。

「何處に泊つてゐるの？」と尋ねて來る。四つ星ホテルの名刺をさし出すと、「荷物が多くて氣の毒だから、お送りする」という。パリやローマのブチックのママさんというのは、お高くとまり、つんとすました中年の、口八丁、手八丁、その上、頭の先から足の先まで、寸分



れ忘れてたけど、あなたの買ったボストンのキー。アリ

「アリヴィエデルチ！」

念のためボストンにキーをかけ、全身トータルファッショニ身を固めたH・ジュニア氏は、夕食後、ロビーで女の来るのを待つた。

「アローレンそつくりの、足の長い美女ではないか？
白っぽいマキシドレスの上から、真夏というのに、ミン

クのコートを肩にかけていた。並ぶと、肩から上が、H

・ジュニア氏の頭の先より出ているという感じ。しかしヨーロッパでは、こんな取り合せのカッフルは、ごく普通だ。H・ジュニア氏こそは、イタリア中年男の基本型なのだ。背が低く、頭が禿げ上り、お腹が出ていることは、ヨーロッパでは金持の象徴。H・ジュニア氏も卑

下するに当らない。

胸を殊更張つて、彼は、彼女と並んでカラカラ浴場跡の仮設スタンドに腰を下したのである。

間に舞台がしつらえられ、その前にオーケストラボックスができていて、客席との間を仕切つている。スタンドの周囲は、古代さながらのうつそつたる大樹の影が黒々と取り囲んでいる。その上に、三日月まで出でているではないか？ 始まつた大コラースは、遺跡の下に寝る古代人が、地の底から発するうめき声の如く、ひびき始めるのだ。美しいソロの歌声も、マイクなしで充分顧客の心にまで滲透し、一幕終れば、相手と口笛と声援の嵐が起るのである。歌手達は幕の前に顔を紅潮させて居並び、精一杯の笑顔を作つて腰を折り、投げキッスをして拍手に応えている。

真夜中に終るオペラは、よほど、イタリア娘の血を湧きたたせるらしい。カラカラ浴場のソフィアローレンが生れたままの姿で、H・ジュニア氏を、ホテルのベッドに迎え入れた時、彼女の官能はすでに燃えていた。

「早く、コンドームして！」

H・ジュニア氏は、鍵をわざわざかけた、あのボストンバッグを開けようとした。その中にコンドームがしまつてあるのだ。しかし、あわてれば、あわてるほど、鍵は穴にスッポリうまく入らない。不思議だ。無理にこじると、ゴキッと音がしてこわれてしまつた。

「早く早く！」

遂にH・ジュニア氏は、鍵を引きちぎつた。

部屋一杯、汗ばんだ熱氣に満ちた彼女の腋臭がただよう中で、H・ジュニア氏は、木の幹のよう立派な彼女の両もとに下半身をはさまれながら、上半身は、彼女の腕にがつしり抱かれ、彼女のわきの下に顔をうすめて死したのである。

「ボストンの鍵、間違えてごめんなさい。彼女、素晴しかつたでしょ？」

と、翌朝、ブチックのママが電話で言つてきた。

二つの巨大な岩山がとりでのようそり立つ遺跡の

思つていたら、意外と若い人たちが多い。三宮から少し離れてるので、お年寄りは息切れがするのでしょうか。ホホホ……とこれは冗談。三宮とは目と鼻の先、



ママのとも子さん

ランコ「カオーブンした。
ママのとも子さんは、ム
ーンライト」の卒業生。
「うちの店は色気はない
んですけど、静かにお酒が飲
めて、お客様同士が気楽に話
に語り合える、そんな場所で
にしたいんですよ」
とハリキリママは快活に
おっしゃる。『ムーンラ
イト』のおなじみさんの関係性

★あなたのブランコでゆうりやうりと
4月1日、中山手のアリ



に踏み切ったのだ。
四百枚を上回るブルース
とR&Bのレコードがジツ
クリと楽しめるオーディオ
ルーム（douga room）。

に行つたなんて話は今や昔語り。神戸でブルースを聴きたいなあ……という受身の姿勢から、神戸でブルースを聴くべきだ！と積極姿勢をみせた神戸生まれでオーディオファンの24歳の若者が遂にブルース喫茶開店

★フルース 今 神戸に！
五月三十日、神戸にブルース旋風が到着！ ブルースR&Bファン待望の店〈djang〉がオープン。

ボルトード、カティイサーキー、九千割、
G&G、カティイサーキー、六百円、オーレード
G&G各五百円、軽食あり
神戸市生田区中山手通30番地
ダイワナイトプラザ2F
中 三 一、二〇〇〇

老いも若きも共に〃プラン
コ〃でゆうらりゆうらりと
初夏の一宵を楽しみません
か。

ビーフシチュー (サラダ付) 百八円
ハンバーグ六百円、コートル茶色名
円、ボトル (OLD) 六千円
円、水割 (OLD) 五百円、フィズ
五百円、ビル四百円
神戸市生田山手通一丁目
モンシヤド田口コトブキビル
西二四二一
一九五九
B 128

ンガ造りのシックな感じがいい。お酒と音楽、そして軽やかに会話がとびかう。きどった店の中でアットホームな店づくりがマスターの望み。気の合った仲間が集まるスペース——B-BLOCK。そして、夜、八時三十分から零時までの間に四回、あのチャーリーの歌が聴かれるのだ!

★アットホームな店B-ブロックがオープン
細い階段を降りる地下の店——B-BLOCK。

十分満足して貰えると自信満々。
毎週月、水、金曜日には
ライブセッションもやる。
ブルースファンのあなた、
さあ、今すぐ(django)へ。

ド店よりはこじんまりとしています。が、豪華な雰囲気はそのままです。ド
コーヒー、ジュース、アイスクリーム、そして、逸品揃いのアンティークとステキな音楽。
六甲界わいの住人の間で、今、静かなブームを“ん”が呼んでいます。



“アートアロード店”

ますが、『ん』というお話をご存知ですか。さかい
・しんじさんというこりにこつの方の店――コ
ヒー＆アンティック。
その『ん』がこのほど
支店を出しました。場所は
阪急六甲駅山側、姫路

●神戸うまいもん
とドリンクキング
コーヒー＆アンティック
アロード店 三九一一五八
九 阪急六甲店 一八四二二二
九三九
トアロードにはセンスの
ある店が軒を並べていて



ご結婚おめでとうございます

10名様前後のパーティーに
特製かぶと焼をご利用下さい

かぶと焼き マトン・ポーク・チキン
えび・いか・サーモン 各￥ 600
ビーフ・ミックス 各￥ 800
水割(O.L.D.)、アクアビット
各￥ 450

スモークサーモン ￥ 1,300

ピット・イ・パンナ
(スウェーデン風ボテいため)
￥ 1,000

スモー・シュットブラン
(スウェーデン風肉だんご)
￥ 1,000



RESTAURANT & BAR

Gokstad

6:00P.M. - 2:00A.M. 水曜日休み
神戸市生田区山本通3の18 谷口ビル1F ☎ 242-0131

フレッシュな味。 神戸生れの六甲牧場



HANA

牛乳
★ 喫茶店・洋菓子店に！

ケーキ用クリーム
コーヒー用クリーム

各種アイスクリーム
ソフトミニツクス

★ご家庭に！

ヨーグルト
プリン・ジュース
フレッシュ牛乳

株式会社
六甲牧場

〒657 神戸市灘区篠原南町6丁目1-25

電話 神戸 (078) 801-6000 (代表)

★ご用命しだい営業マンが直にお伺いします。



蟹料理の店

かに料理の店

神戸・三宮阪急西口北側レインボープラザ
☎ 078-321-6363



さかな
ばさら

熟練の調理士が
新鮮な材料をぜいたくに使い
新しさを加味し盛りつけます。

但馬水軍船料理

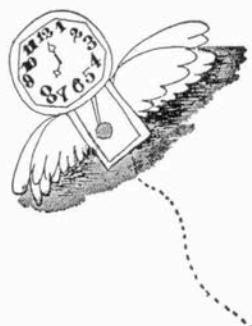
かに料理

◆1・2階

カニ料理の店

山海の滋味ゆたかに季節を
盛りあげます。

神戸百店会
だより



大正の歌謡

新しい感覚で真珠や宝石の美しさを追求している田嶋真珠社が、このほど人工採取の技術開発に成功した半円マベ真珠の新たな経路を確立するため、この経路を確立するため、この設立しました。

田崎俊作社長



株式会社田崎マベパール

取締役営業部長 小山 舶
取締役加工部長 浜口義彦
監査役 竹内恒造
顧問 一の瀬吉郎

い予定。数年後に完成する第3号ビルとあわせて三宮はここ数年で姿を一新するようだ。

このセントラーブラザには婦人服飾のベニヤ、オートクチュールの装苑、紳士シャツ、ネクタイの大和屋、ヤツ、アクセサリーの芸夢、フランス菓子のベル、おもちゃのカメヤなどが入る予定。

「この夏はカラフルな装いが流行りそうだ」というお話です。



心斎橋バルコのスギヤ

センター「プラザビル」完成
三宮センター街さんプラザ
ザ西隣に建築中のセンター「
プラザ」（地下2階、地上19
階）は地下1階から地上3
階までの店舗部分のみ7月
26日オープンの予定で、い
ま最後の仕上げにかかる
います。

心斎橋バルコ3階にある
スギヤ（本店アロード）
が4月18日ぐと明るく改
装オーブン。ヤングを対象
にしたこのスギヤはその名
もアツブルハウス。お店の
メンバ一も店長以下全員若
々しくジーンズコートナーあ
りニユートラありと神戸つ
子ならぬ浪花つ子の人気を
呼んでいます。

● 110 テクノロジー

ベニヤさんのお話ではセ

ンタープラザの1階にサンローランなどの舶来高級ブレタ、国産高級ブレタを中心として、セレクト店舗(アーリーの夏秋もの)の新作が豊富に揃いました。婦人靴は、紳士靴もあわせて約六〇〇足。靴の力も、大きさも、選ぶ楽しさも、まさにアーリーの夏秋もの。

ポケットジャーナル



★センター・プラザ OPEN

いよいよ7月26日

神戸市の三宮総合都市計画によるCプロック『センター・プラザ』(サン・プラザ

西側)が、地下(食道街)

1F(従来のセンター街の専門店を含む)2F(京町筋の専門店を含む)3Fフロアで、新しい加盟店もふくみ、一五〇店の専門店が

七月上旬にオープンする。



完成まじかのセンター・プラザの全景

高層階のビルは年末の十一月につづいてオープン。二月に開業したこのセンター・プラザの井川一馬専務は「トータルファクションがきく、モデルケーションがきく、モデルケースの新しいショッピングになるように」と店舗ぞろえ

この湯川書房は、五年に一度手筆書の美術造本に命を賭けるところで、越前紙(25cm×40cm)の2頁に一冊設置で長らく営業を続けたこのブロックも、新しい装いでお目見得だ。センター・プラザの井川一馬専務は「トータルファク

トと名づけたもの。

赤尾兜子(元湯川書房

「渦」主宰)が、代表作30句を選んでの肉筆書。赤尾

さんは、播州竜野の出身な

ので、その題名を「龍の裔」

と名づけたもの。

この湯川書房は、五年に

一度手筆書の美術造本に命

を賭けるところで、越前紙

(25cm×40cm)の2頁に一

冊設置で長らく営業を続

けたこのブロックも、新し

い装いでお目見得だ。

センター・プラザの井川一

馬専務は「トータルファク

ションがきく、モデルケ

ースの新しいショッピングになるように」と店舗ぞろえ

に懸命だ。

高層ビルは、結婚の総合施設を含むビルになる予定。

このほど、限定18部とい

う墨書きの句集が湯川書房

(摂津市正雀本町)から出

版された。前衛俳句の赤尾

兜子さん(神戸市東灘区御

影町上ノ山一六九〇)が、代表作30

句を選んでの肉筆書。赤尾

さんは、播州竜野の出身な

ので、その題名を「龍の裔」

と名づけたもの。

この湯川書房は、五年に

一度手筆書の美術造本に命

を賭けるところで、越前紙

(25cm×40cm)の2頁に一

冊設置で長らく営業を続

けたこのブロックも、新し

い装いでお目見得だ。

センター・プラザの井川一

馬専務は「トータルファク

ションがきく、モデルケ

ースの新しいショッピングになるように」と店舗ぞろえ

また赤尾さんは、この1年身体の不調もあり、やつと最近快復。この6月29日には最新句集『歳華集』が

角川書店から発刊され、生田神社会館で『出版記念

会』が企画されているが、

その場内に『龍の裔』も飾

られる予定で、二冊の作品

完成は赤尾さんの壮年期の

内熱ぶりが伺えると期待さ

れている。同時に、

第一講座「障害児の生きがいをも

とめて」信楽青年学長池田太郎

第二講座「ふれあい」丸山

学園と北須磨保育センターの交

流」

第三講座「コミュニケーションと施設」

二十四講座「コミニティと施設」

二十四講座「施設見学と交流

第五講座「パネル「障害児と共に歩むコミュニケーション」

第六講座「丸山学園長日下知久

育セントラル統合と分離」北須磨

申込手続(1)氏名(2)住所(3)職業(4)

泊(食事別一泊千七百円)希望

の有無を記入の上(5)聴講料と宿泊料を現金で支払(6)運動本部へ、折返し聴講券と会場案内などを送ります。

これが出版と同時に売切れというので、ファンにとっては「幻の本」となっています。代表句の「音楽漂う岸に裂けた木塙のまわりに塩軋み」などが書かれていました。

誕生日
ありがとう
運動



第三回市民の福祉講座



赤尾兜子さん

福祉教育の一環として例年開催している講座を、今年は長田区丸山地区で開きます。コミュニティづくりで全国的に注目される丸山地区と、地区内にいる障害者施設との交流を、現地でじかに学習しましょう。

る席で自由に見られるとい
うもの。

会費・A、Bコースが個
人一万円、法人五万円、C
コースが三万円。どのコ
ースも普通の入場券よりも一
割安くなっている。

問合せ・神戸市生町4-28
化ホール事業課 351-3533

★元町に二つの音楽教室
「ロッコーマン」「ヤマハ」
ロッコーマン・元町本通
りを西へ歩いていくと、右
手に大きなギターのマーク
のカンバンが目にとまる。



立木賢(フォーク)

(日)・クラシックギター
(月)・火(土)・パンジョ

1、フラットマンドリン
(木)・フォークギター(金)
ヤマハ音楽教室・音楽教

育の重要さを充分に知った

うえで音楽教室を開いてい
る。「從来のように、バイ
エルから押しつけがましく
教育しても効果がない」と

元町ヤマハの中島さんは、
おっしゃる。聴く感覚が急
速に伸びる幼児期に適確な
レッスンをしておくのが音

楽教育の重要なポイントと
なるそうだ。

対象・満4才からの子
供、指導期間・2ヶ年、レッ
スン回数・年間44レッスン

★新谷琇紀彫刻展が

一周年を迎えた

躍動感のある女性美を表

現して具象彫刻に益々深い
味をだす新谷琇紀さんの、
久々の地元神戸での個展が

五月四日・十七日までぎや
りー神戸で開かれた。

このぎやるー神戸は、
新谷琇紀展が開廊一周年記
念展にあたり、それだけに

階段をトントンと上ると
ギター、マンドリン、バ
ンジョーなどが、所狭しと
並んでいる。マーチン、ギ
ブソン、ギルド等のギター
は一度、弦を鳴らした事の
ある人は、一度、ロッコーマ
ンをのぞいてみると良い。

店の人なら誰でも、親切に
音楽教室の案内をしてくれ
る。



豊かな生命感あふれる裸婦像
が並ぶ会場

澤邊社長と、新谷さんの力

のいれようもひとしおで、
ローマ時代の未発表作品に

新作を加えた彫刻21点、素

描20点と力作が会場をうめ
た。

グレコやマンズーに学ん
だ新谷さんの、具象の中で

のギリギリの動きを表現す
る新しい感覚とさわやかな

生感がノビた裸婦の手や
足にみなぎる作品群が、会

場を訪れた人たちを魅了し
た。

★朝比奈千足さん
ご結婚おめでとう!

クラリネット奏者であり
大阪フィルの指揮者として

活躍中の朝比奈千足さん
(31)が、ピアニストの木

村加代さん(25)と、4月
25日大阪ホテルプラザで結

婚式をあげた。



千足・加代さんお幸せに!

美術 ガイド



★兵庫県立近代美術館
ドーミエ展 5/17~6/15

特別展・兵庫の美術抽象家
の21/7/29

★南窓美術館
浮説と長崎版画 6/5~6/29

★ギャラリー・神戸
第2回小松益喜素描展・街と田舎
6/1~6/7

★香雪美術館
仏教美術と茶道具展
3/12~6/15

★大丸百貨店美術画廊
三夏会日本画展 6/5~6/29

片野元彦絵画展 6/5~6/29

第3回旦虹会日本画展
6/5~6/29

鈴木政洋画展 6/6~6/12

カガミクリスタル作家展
6/6~6/26

★大丸百貨店4階催し場
東立社展 5/29~6/29

ドイツ民主共和国陶磁器
フェア 6/29~6/29

東山魁夷展 6/26~6/27

★ギャラリー・さんち
神戸市美術館写真展
6/26~7/1

六方釜和田石凍田と同人展
6/26~7/1

新書人連合展 6/26~7/1

第3回アトリエ青銅社展
6/26~7/1

★さんちか広場
中国物産展 6/26~7/1

★KCCギャラリー
舟山会南画展 6/26~7/1

新協美術神戸写真展
6/26~7/1

第5回丹波陶友会展
6/26~7/1

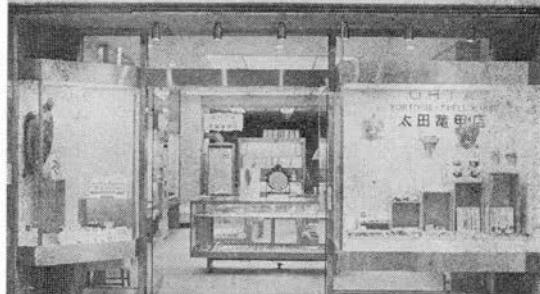
タカハシノブ黒い絵の個展
6/26~7/1

甲南女子大学美術部
4回生展 6/26~7/1

出席者には、音楽関係の
人々も多かつたが、大阪の
財界人も多く、伊部住友銀

入会金: 200円
月謝: 350円
課目: ブルーグラス全般

太田鼈甲店



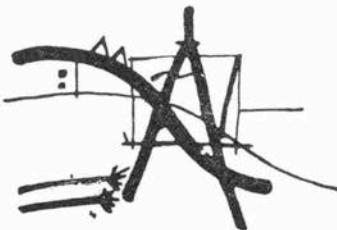
べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

元町1丁目 TEL(331)6195

額縁絵画・洋画材料

室内工芸品



末積製額

三宮・大丸北
トア・ロード
331-1309-6243

KOBE SHOPPING GUIDE

お
す
し
て
ん
ぶ
ら



榮
舖

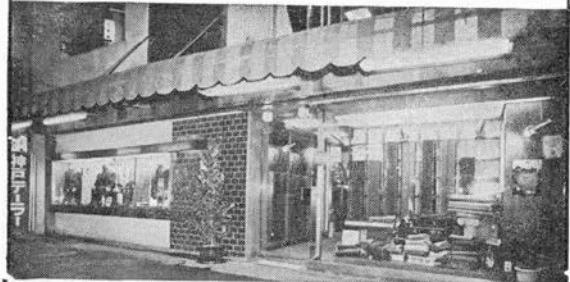


営業時間
A.M.11.30～P.M.9.00

支店
本店
TEL(331)5577
(毎週水曜日休み)
さんちか味ののれん街
(第3水曜日休み)
TEL(391)5233
大丸前・三宮神社東
TEL(391)5677
TEL(391)5322
TEL(391)5324

高級紳士服専門店

神戸テーラー



さんちかメンズタウン TEL(391)0388
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL(331)2817-3173

